

第7章 歴史文化資産の一体的・総合的な保存と活用に関する方針

1. 関連文化財群

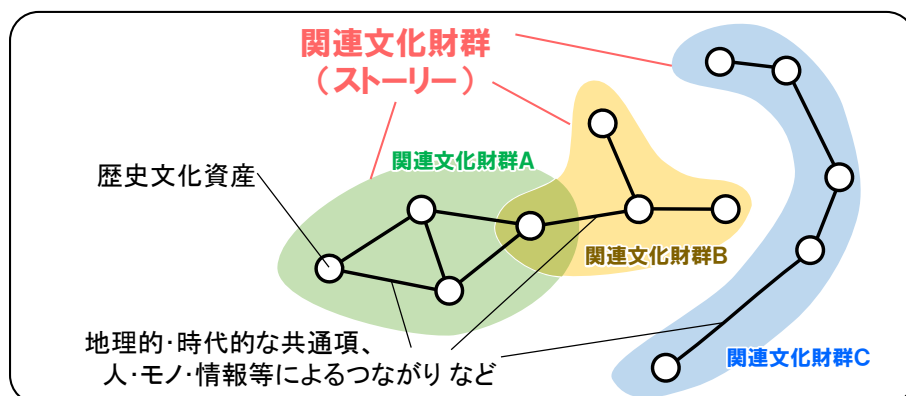
1-1. 関連文化財群設定の方針

(1) 関連文化財群の目的及び期待される効果

関連文化財群とは、『地域の多種多様な文化財を歴史文化の特徴に基づくテーマやストーリーに沿って一定のまとまりとして捉えたものである。まとまりをもって扱うことで、未指定文化財についても構成要素としての価値付けが可能となり、また、相互に結びついた文化財の多面的な価値・魅力を発見することができる。』（「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・保存活用計画の策定等に関する指針」文化庁、平成31年(2019)3月）として設定するものです。

本市の歴史文化の特徴を体現する多様な歴史文化資産を、共通の背景や文脈を持つストーリーでまとめ、相互の関係性を踏まえた一体的・総合的な保存・活用に取り組むことにより、俯瞰的な視点から歴史文化の価値等に対する市民及び来訪者等の理解を促進するとともに、それらを構成する個々の資産の存在意義を高めていくことで、ひいては、保存・活用に関わる多様な主体が歴史文化を身近に感じ、地域に対する誇りや愛着を育み、歴史文化を活かしたまちづくりへと主体的に取り組むことが期待されます。

関連文化財群の概念図



(2) 関連文化財群設定の考え方

関連文化財群は、前項の考え方等を踏まえ、以下の点に留意して設定します。

- ・近江八幡市の歴史文化の特徴を反映し、その魅力をわかりやすく伝えるストーリーとします。
- ・市民等が共感でき、歴史文化を活かしたまちづくり活動等の促進につながる内容・構成とします。
- ・市外からの来訪者にアピールでき、市内観光等のための回遊性の向上につながる内容・構成とします。
- ・ストーリーは、指定等文化財以外にも、未指定の文化財を含む歴史文化資産で構成します。また、核となる関連施設（資料館など）や歴史文化に関わるイベントなども含めて、多様な取組への展開を見据えた構成とします。
- ・学区での歴史学習等への活用につながる内容・構成とします。

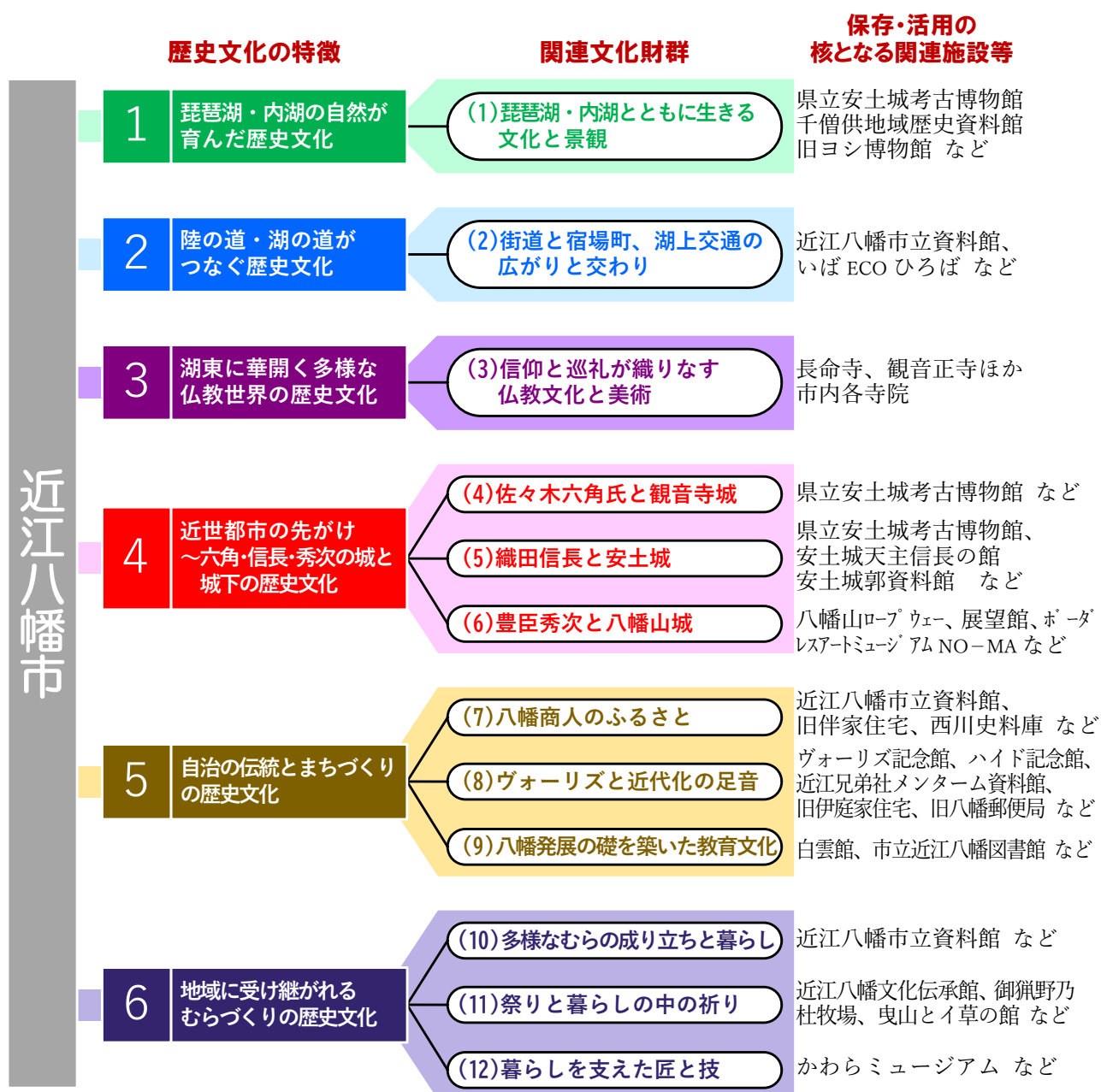
1-2. 近江八幡市の関連文化財群

前項の設定の考え方を踏まえ、本市の6つの歴史文化の特徴に対して、関連文化財群を以下の12に設定します。

なお、これらの関連文化財群は、歴史文化資産が市域全体に展開されるものや、複数の地域（学区）にまたがるなど、比較的広域からの視点によるものを主としています。一方で、市内には、地域（学区）の歴史文化に根ざした固有のストーリーが様々な存在しています。

今後、市民等の参加と発意のもと、地域（学区）における関連文化財群を設定、充実させることで、自らの暮らす地域の魅力を共有し、地域づくりの活性化につながることを目指していきます。

近江八幡市の関連文化財群



次頁以降に、各関連文化財群のストーリー概要及び構成歴史文化資産を記載します。構成歴史文化資産は、現時点までに把握された主な資産を記載していますが、今後、把握調査の進展に伴い、新たに関連性が見いだされる資産なども追加し充実を図っていくものとします。

【琵琶湖・内湖の自然が育んだ歴史文化】

(1) 琵琶湖・内湖とともに生きる文化と景観

1) 概要

市域では、縄文時代には、琵琶湖及び内湖周辺に広がる平野に集落が発生し、豊かな水と土の恵みを活かした人々の営みが行われてきました。弥生時代には既に水稻耕作がはじまり、**大中の湖南遺跡**をはじめとした、内湖周辺に広がる肥沃な土壌の水田化など琵琶湖畔周辺の開発が進められ、中期後半には内陸部に入った台地上に集落が形成されるようになりました。

古墳時代に入ると、**古代豪族**による支配のもと**雪野山古墳**、**瓢箪山古墳**などの古墳が築かれました。古代には、高度な技術をもった**渡来人**による湖東地域一帯の内陸開発が進められ、**蒲生郡**の条里と荘園が発達することとなります。

鎌倉時代末期には、近江各所で**惣荘**あるいは**惣村**と呼ばれる村々が発達し、自治的組織・運営が行われました。北津田に伝わる**大島**、**奥津島神社文書**（奥嶋百姓等隠規文）は、日本で最も古い惣掟として知られ、琵琶湖や内湖との関わりの中で育まれた**惣村文化**を今に伝える貴重な歴史文化資産です。

中世から近世にかけて、湖上関や**八幡堀**に代表される水運の発達や、八幡商人による新田開発など、様々な形で恩恵を与えてきた市域の内湖は、戦前から戦後にかけて食糧増産を目的とした**干拓事業**のもと大きく姿を変えていくなか、往時の姿が今も残る**西の湖**は琵琶湖最大の内湖として琵琶湖とともにラムサール条約湿地として登録され、また、「**近江八幡の水郷**」として重要文化的景観選定の第1号となるなど、その保全が図られています。

琵琶湖最大の島であり、日本の淡水湖の中で唯一人々が生活する**沖島**とともに、ヨシ原が広がる琵琶湖畔や西の湖周辺は、往時の**水辺の暮らし**を偲ぶ琵琶湖の原風景ともいえるべきものであり、現在の景観に受け継がれています。

2) 構成歴史文化資産

	種別	名称	類型
1	記念物	大中の湖南遺跡	国指定文化財
2	記念物	弁天島遺跡	未指定
3	記念物	雪野山古墳	国指定文化財
4	記念物	瓢箪山古墳	国指定文化財
5	記念物	千僧供古墳群	県指定文化財
6	記念物	西車塚古墳	未指定
7	記念物	東車塚古墳	未指定
8	記念物	常楽寺山古墳群	未指定
9	記念物	御館前遺跡（推定蒲生郡衙）	未指定
10	有形文化財	短甲、刀剣	市指定文化財
11	文化的景観	近江八幡の水郷	国選定文化財
12	文化的景観	琵琶湖及び沖島	未指定
13	文化的景観	内湖（西の湖、北沢内湖）	未指定
14	その他人文	旧内湖の干拓地（大中の湖、小中の湖、津田内湖、水茎内湖等）	未指定
15	有形文化財	沖島町共有文書	未指定
16	有形文化財	西福寺資料（蓮如六字名号等）	未指定
17	有形文化財	大島、奥津島神社文書*	国指定文化財
18	有形文化財	白部若宮神社文書	未指定

その他…上記遺跡・古墳出土品、埋蔵文化財包蔵地（農耕集落跡、古墳・古墳群、古代寺院跡、渡来人関連遺跡、条里遺構等）

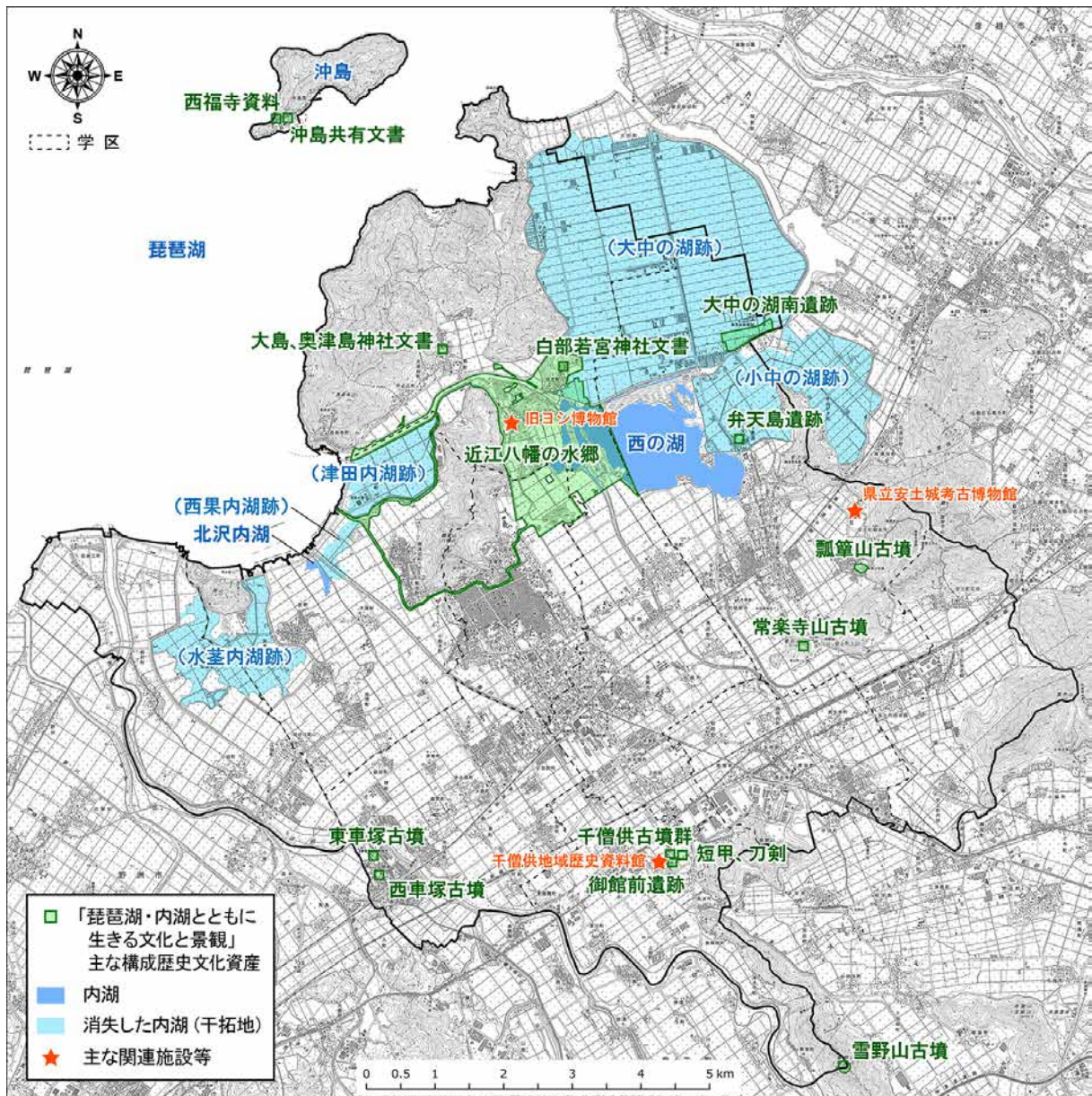
及び出土品、集落・漁村の生活・生業関連の資産、干拓に関する資産（古写真、公文書、干拓記念碑）等

※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産

3) 保存・活用の核となる関連施設等

県立安土城考古博物館（安土）、千僧供地域歴史資料館（馬淵）、旧ヨシ博物館（島）など

「琵琶湖・内湖とともに生きる文化と景観」主な構成歴史文化資産等の分布



※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産について元の所在地情報に基づき場所を示している



大中の湖南遺跡



瓢箪山古墳



近江八幡の水郷



大中の湖干拓地



千僧供古墳群
(住蓮坊古墳)



弁天島遺跡
(福島弁天)



西の湖



沖島

【陸の道・湖の道がつなぐ歴史文化】

(2) 街道と宿場町、湖上交通の広がりとの交わり

1) 概要

古代、市域を通過する交通路である**東山道**は官道として整備され、篠原付近には食事や宿を提供する**駅家**が置かれました。都と地方の往来で多くの人々が当地を訪れ、わが国最古の歌集である**万葉集**にも、近江を舞台とした歌に沖つ島山（沖島）や水茎の岡（岡山）が詠まれています。

中世には、武佐が**宿駅**として機能し始め、**八風街道**が東山道と交わることで、**山越商人**ともいわれる小幡（東近江市）・保内（同）・石塔（同）・杵掛（愛荘町）の商人が頻繁に利用し、物資の流通地点として発展していきます。近世に入ると、東山道は**中山道**と呼ばれ、参勤交代やお茶壺道中、また、伊勢参宮や各地の寺社参詣へ多くの旅人が往来し、**武佐**は宿場町となりました。その他、朝鮮通信使の昼食休憩地となった八幡を通る**朝鮮人街道**や、長命寺や観音正寺への**西国巡礼**に向かう巡礼路など多くの街道も整備されました。近世の街道は、様々な人や物が往来し、沿道の人々にとっては、異文化に接する機会でもありました。

一方、琵琶湖側に目を向けると、平安時代には、船木郷が船材の集散地となり、奥島・沖島には**湖上関**が設置されました。近世に入ると、八幡町と船木村の船仲間から**八幡浦**が誕生し、湖上交通の重要な拠点として物資輸送に貢献し、在郷町八幡町の経済的繁栄の基礎を築いていきます。また、常楽寺浜や江頭浦も村々で生産した米の輸送に利用されるなど、各所に浦が展開されました。

本市は、これら中山道、朝鮮人街道といった全国区の東西路と、内陸部と琵琶湖水運を結ぶ南北路とが交差する、恵まれた立地条件のもと**湖東の水運拠点**として発展してきました。

明治時代になると、近代化の波が現れ、明治5年（1872）には長命寺港と大津・米原を結ぶ**蒸気船**が就航しました。明治22年（1889）には東海道線、大正2年（1913）には湖南鉄道（現近江鉄道八日市線）が開通し、**鉄道交通**が発達します。その後、湖上交通は衰退していましたが、鉄道の両路線は現在でも市民の足に欠かせないものとなっています。

現在、これら街道沿いには、八幡の伝統的建造物群に代表される往時を偲ぶ町並みとともに、道標や常夜灯などが多数残されており、今なお往来する人々を導いています。

2) 構成歴史文化資産

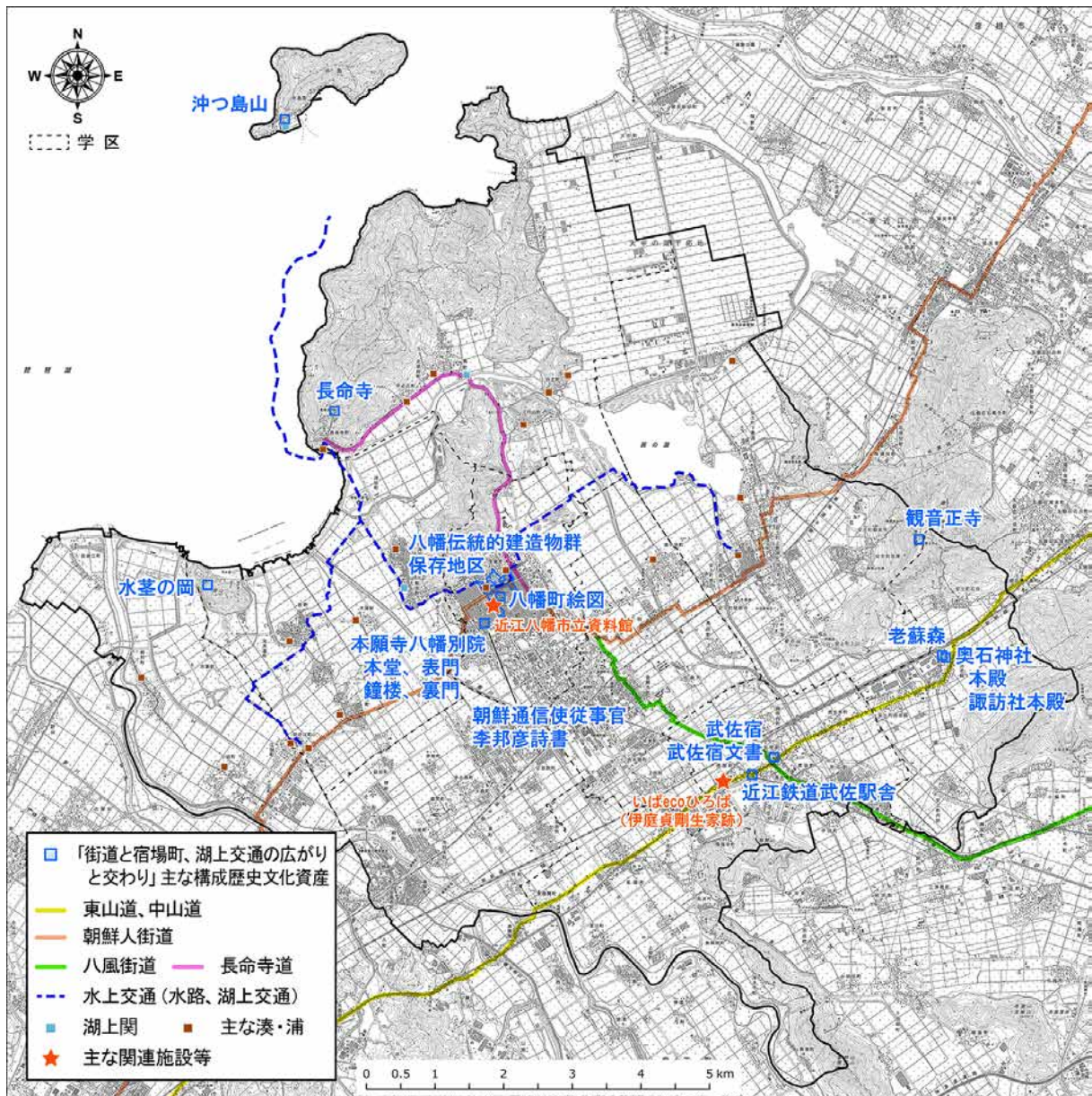
	種別	名称	類型
1	その他人文	東山道、中山道	未指定
2	その他人文	朝鮮人街道	未指定
3	その他人文	八風街道	未指定
4	記念物	老蘇森	国指定文化財
5	有形文化財	奥石神社 本殿、諏訪社本殿	国・市指定文化財
6	記念物	武佐宿	未指定
7	有形文化財	武佐宿文書	未指定
8	記念物	西国巡礼札所（観音正寺、長命寺）及び巡礼道（長命寺道等）	未指定
9	伝統的建造物群	八幡伝統的建造物群保存地区	国選定文化財
10	有形文化財	八幡町絵図	市指定文化財
11	有形文化財	本願寺八幡別院 本堂、表門、鐘楼、裏門	県指定文化財
12	有形文化財	朝鮮通信使従事官李邦彦詩書	市指定文化財
13	その他人文	湊・浦（八幡、常楽寺、江頭、田中江等）	未指定
14	その他人文	湖上関（船木、奥島、沖島）	未指定
15	その他人文	万葉集の舞台（沖つ島山、水茎の岡）	未指定
16	有形文化財	近江鉄道武佐駅舎	未指定

その他…その他の街道（景清道、白鳥道、常楽寺道等）、道に関する資産（道標、町石、常夜灯、石碑等）、武佐宿に関する資産（武佐宿本陣跡及び脇本陣跡、高札場跡、武佐櫓、武佐墨、ムシャリンドウ、絵図等）、浦・水運に関する資産（常夜灯、丸小舟等）、歌碑（万葉歌碑）、蒸気船に関する資産（千齡丸と長命寺港）等

3) 保存・活用の核となる関連施設等

近江八幡市立資料館（八幡）、いばECOひろば（武佐）など

「街道と宿場町、湖上交通の広がり」と「交わり」主な構成歴史文化資産等の分布



※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産について元の所在地情報に基づき場所を示している



中山道武佐宿



老蘇森



奥石神社本殿



朝鮮人街道の町並み



本願寺八幡別院



八幡堀（八幡浦）



常楽寺湊



水茎の岡

【湖東に華開く多様な仏教世界の歴史文化】

（３）信仰と巡礼が織りなす仏教文化と美術

１）概要

近江には約 70 か所の飛鳥・白鳳期創建寺院が知られており、これは大和の 80 数か所に次ぐ多さであり古代近江の繁栄ぶりをよく示しています。市域においては、倉橋部廃寺、千僧供廃寺、長光寺廃寺、安養寺廃寺、加茂廃寺、船木（万願寺）廃寺、安土廃寺の 7 か寺の白鳳期の**古代寺院**が確認されており、中世に華開く仏教世界の萌芽がみられます。

街道や湖上交通の発展とともに人や物の移動が盛んになると、多様な宗教者や巡礼者がこの地を行き交うようになりました。同時に、これらに関わる信仰の対象物も持ち込まれるようになり、市域における宗教文化の華が開きます。

『三代実録』には、貞観 7 年（865）、**奈良元興寺僧賢和**^{がんにこうじ けんわ}が奥島に堂舎を構えたとあり、この時期の造像とされる木造地藏菩薩立像が現地に伝来しています。この奥島に隣接する津田荘は、延喜 12 年（912）に貞頼親王^{さだよりしんのう}（清和天皇第十皇子）が延暦寺西塔院に寄進しており、地域における延暦寺勢力の経済基盤ができると、11 世紀後半には西塔院別院となる長命寺が登場します。**長命寺**の本尊三尊は平安時代から鎌倉時代の古仏で、のちに**西国三十三所**観音霊場の三十一番札所として、庶民の信仰を集めました。

また、この地域では、鎌倉時代後期に長命寺で熊野の先達が活動していることが知られ、さらに同じ島続きの**伊崎寺**が**山岳修験**の一拠点となり「**伊崎五ヵ寺**」（長命寺、阿弥陀寺、安楽寺、石馬寺、千手寺）という、近江国内に大きな力を持った組織を形成します。さらに岡山、八幡山を通り伊崎寺へ向かう回峰行も行われるようになり、以後周辺では願成就寺、興隆寺、桑實寺、観音正寺などで山伏の活動が確認され、修験道の隆盛を迎えました。また、これらの寺院のうち 6 か寺が**聖徳太子**の開基とされるほか、長命寺には太子堂（現在の**穀屋寺**^{こくやじ}）が建てられ、周辺各地では太子講が盛んとなっていったことも、この地域の特徴的な宗教文化といえます。

一方で主要街道の東山道沿いでは、**武佐宿**を中心に宗教文化が展開されていきます。**広濟寺**は、近江における浄土真宗の中心寺院の一つとして市内に多くの末寺を擁し、また、**長光寺**は山岳修験寺院として伊吹山修験などとの連携体制を築き、「伊崎五ヵ寺」とは異なるネットワークを構築しました。長光寺は、南北朝期には後光厳天皇・足利尊氏が京都を目指してたびたび逗留しており、武佐という交通の要衝に立地し、さらに軍隊が逗留できる規模を兼ね備えた寺院だったと考えられます。また、同じ南北朝期に、**真宗文化**もこの地域で展開されていくこととなります。**錦織寺**^{きんしよくじ}**四代存覚**^{ぞんかく}はたびたび武佐に滞在し、そこで周辺の門徒らに**方便法身像**^{ほうべんぼっしん}・名号を下賜しており、その中には武佐の道願の門徒で西庄^{よとらうじ}の与藤次、佐々木常楽寺の妙円、豊浦荘の戒円、上田の教西らが確認できます。

さらに東山道沿いの西生来町には、享禄 2 年（1529）の**六十六部衆**^{かいこく}の廻国供養塔が伝来しています。六十六部衆とは日本全国六十六ヵ国を巡り、各国の霊場に法華經一部を納経して廻る巡礼者たちであり、西国三十三所のみにとどまらず、多様な巡礼者のあり方も確認できます。

こうした多彩な宗教文化の隆盛をもたらした要因の一つに、街道・湖上交通の発展があったと考えられ、交通の要衝地はまた、宗教者の活動拠点や巡礼の地ともなっていました。

本市は、市域に 200 余の寺院が建立する全国でも有数の寺院が集積する地域として、これら様々な信仰に関わる歴史文化資産が、地域の信仰と暮らしのなかに脈々と受け継がれ、大切に守り継がれています。

2) 構成歴史文化資産

	種別	名称	類型
1	有形文化財 仏教美術 (建造物)	長命寺 本堂、三重塔、鐘楼、護摩堂 (安養寺町) 五重塔 桑實寺 本堂 浄厳院 本堂・楼門 摠見寺 三重塔、二王門	国指定文化財
		正福寺 本堂・表門 本願寺八幡別院 本堂、表門、鐘楼、裏門 長命寺 三仏堂、護法権現社拝殿および渡廊下	県指定文化財
		教林坊 庫裏・表門 浄厳院 不動堂、鐘楼 延光院 多宝塔 浄海寺 石造宝篋印塔 篠田神社 宝篋印塔 真光寺 五輪塔群 (東川町) 宝篋印塔	市指定文化財
		西願寺 本堂	国登録文化財
2	有形文化財 仏教美術 (美術工芸品) ※市外に所在、 または市内 外の美術館 等に寄託し ている資産	西光寺 木造地藏菩薩坐像 専称寺 木造阿弥陀如来立像 長命寺 木造毘沙門天立像、木造千手観音立像、木造十一面観 音立像、木造聖観音立像、長命寺文書 附 長命寺参詣 曼荼羅・観心十界曼荼羅、木造地藏菩薩立像※、金銅 透彫華鬘※、絹本着色紅玻璃阿弥陀像※、絹本着色勢至 菩薩像※、絹本着色釈迦三尊像※、絹本着色涅槃像※ 浄厳院 木造阿弥陀如来坐像、絹本着色山王権現像※、厨子入 銀造阿弥陀如来立像※、厨子入銅製舍利塔※、絹本着色 阿弥陀聖衆来迎図※ 宝珠寺 木造毘沙門天立像 願成就寺 木造十一面観音立像、木造地藏菩薩立像 願福寺 木造薬師如来坐像 生蓮寺 木造阿弥陀如来坐像 善性寺 木造薬師如来坐像 東光寺 木造薬師如来立像 光照寺 木造薬師如来坐像 真光寺 木造聖観音立像 西来寺 木造阿弥陀如来立像 福寿寺 木造千手観音立像 冷泉寺 木造千手観音立像、木造地藏菩薩立像、木造薬師如来坐像※ 小田神社 木造大日如来坐像 西願寺 木造阿弥陀如来立像 会勝寺 木造千手観音立像 石部神社 厨子入木造薬師如来坐像※ 善徳寺 梵鐘 摠見寺 木造金剛二力士立像 円満寺 木造十一面観音立像※ 莊嚴寺 木造釈迦如来立像※、木造聖観音像※、木造空也上人立像※ 伊崎寺 木造不動明王坐像※ 東南寺 木造地藏菩薩立像※ 桑實寺 紙本着色桑実寺縁起※	国指定文化財
		新宮神社 絹本着色薬師十二神将像※ 正禅寺 大般若波羅蜜多經※ 興隆寺 木造弥勒仏坐像 願成就寺 木造地藏菩薩立像 大嶋神社奥津嶋神社 木造地藏菩薩立像 西願寺 木造阿弥陀如来坐像 瑞龍寺 絹本着色釈迦三尊十六羅漢像 長命寺 梵鐘 覚永寺 梵鐘 浄厳院 称讃浄土仏撰受經※	県指定文化財

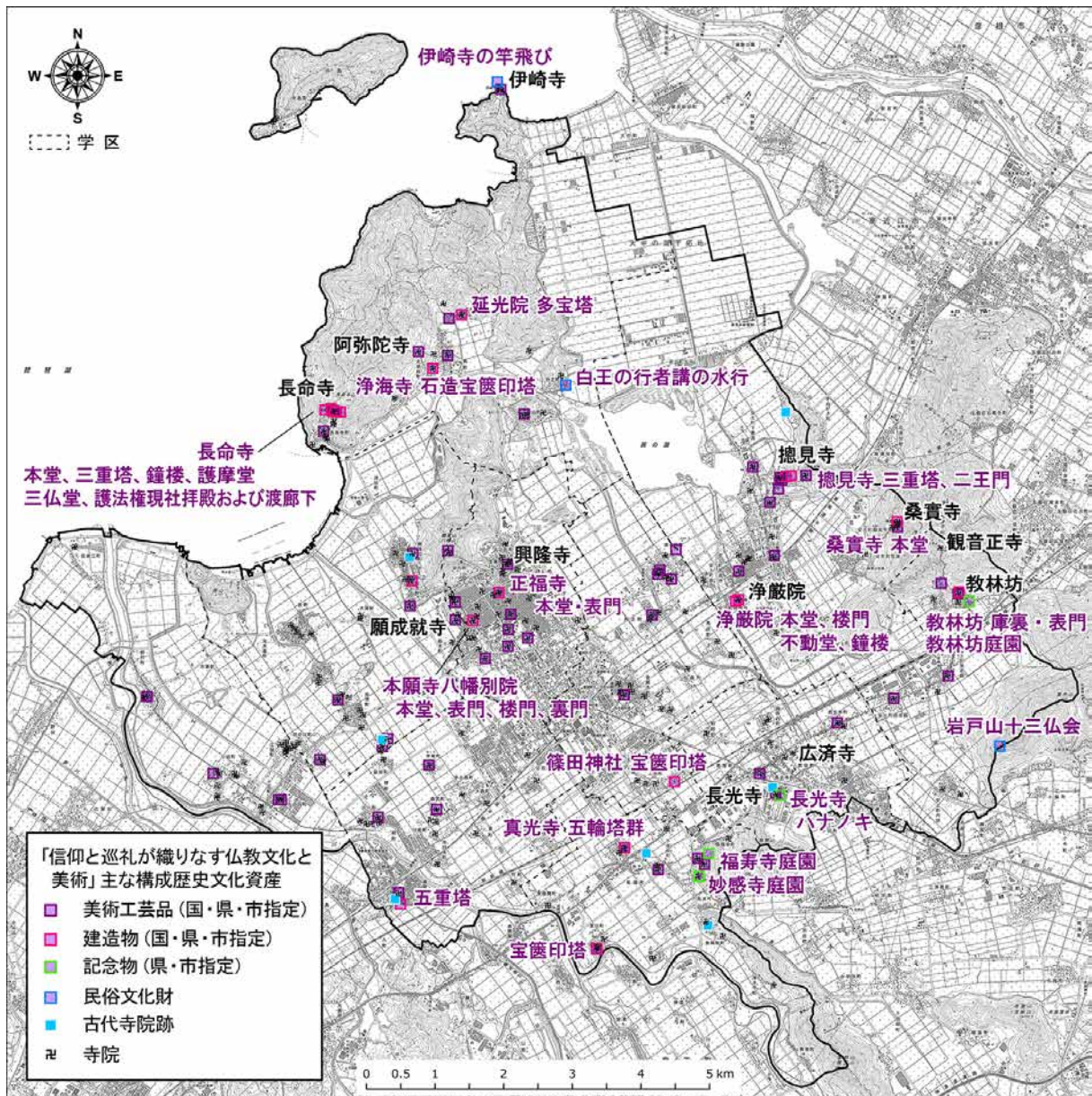
	種別	名称	類型
		長命寺 木造四天王立像、木造大日如来坐像、絹本着色山越阿弥陀像※、絹本着色弥勒菩薩像※、絹本着色釈迦三尊像※、黒漆磬架※、版本大般若経 伊崎寺 木造聖観音立像、木造帝釈天立像、木造天部形立像、金銅装笈 願成就寺 絹本着色五大明王像、木造阿弥陀如来立像、梵鐘、大般若経 円光寺 絹本着色阿弥陀三尊来迎図 仏性寺 絹本着色光明本尊図 正福寺 絹本着色釈迦三尊像、木造阿弥陀如来立像（浅小井町）絹本着色仏涅槃図 新宮神社 絹本着色釈迦十六善神像※ 西光寺 絹本着色仏涅槃図 光照寺 木造二天王立像※、木造阿弥陀如来立像（東川町）木造大日如来坐像 旅庵寺 金銅地藏菩薩坐像 瑞龍寺 木造聖観音立像 極楽寺 木造釈迦如来立像 医王寺 木造薬師如来坐像 興隆寺 木造大日如来坐像 洞覚院 木造釈迦如来坐像 長光寺 木造阿弥陀如来坐像 西福寺 木造阿弥陀如来立像 法性寺 木造阿弥陀如来立像 阿弥陀寺 木造聖観音菩薩坐像 真静院 木造不動明王立像 延光院 木造阿弥陀如来立像 巖浄寺 木造阿弥陀如来立像 莊巖寺 木造阿弥陀如来立像（浅小井町）木造釈迦如来坐像 西願寺 木造十一面観音菩薩立像 報恩寺 木造阿弥陀如来坐像 東漸寺 木造阿弥陀如来立像 正宗寺 木造阿弥陀如来立像 教林坊 木造釈迦如来坐像※ 湖見堂 木造薬師如来立像 浄厳院 木造釈迦如来立像、宝篋印塔、絹本着色観無量寿経变相図※ 千光院 木造弁財天女坐像 東光寺 木造阿弥陀如来立像 福生寺 木造阿弥陀如来三尊像 日吉神社 木造地藏菩薩立像 真念寺 蓮如上人消息 福圓寺 大般若経※	市指定文化財
3	重要美術品	（個人蔵）木造厨子	国認定重要美術品
4	民俗文化財	白王の行者講の水行	未指定
5	民俗文化財	伊崎寺の竿飛び	未指定
6	民俗文化財	岩戸山十三仏千日会	未指定
7	記念物	古代寺院跡（倉橋部廃寺、千僧供廃寺、長光寺廃寺、安養寺廃寺、加茂廃寺、船木（万願寺）廃寺、安土廃寺）	未指定
8	記念物	妙感寺庭園、福寿寺庭園、教林坊庭園	県・市指定文化財
9	記念物	長光寺 ハナノキ	市指定文化財
10	記念物	西国巡礼札所（観音正寺、長命寺）	未指定
11	その他人文	聖徳太子ゆかりの寺院（長命寺、観音正寺、教林坊、桑實寺、興隆寺、願成就寺、長光寺、広済寺等）	未指定
12	その他人文	山岳修験の拠点（伊崎寺及び伊崎五ヵ寺（阿弥陀寺、長命寺、安楽寺、石馬寺、千手寺）、長光寺等）	未指定

その他…上記以外の仏教美術に関する資産（未指定文化財（建造物・美術工芸品））、聖徳太子にまつわる言い伝え・伝承（観音正寺の人魚伝説、老蘇森と長光寺縁起等）、巨石・磐座（姨綺耶山の磐座群）、巡礼道（長命寺道等）、住蓮房・安楽房に関する資産（千僧供町）等

3）保存・活用の核となる関連施設等

市内各寺院（市全域）

「信仰と巡礼が織りなす仏教文化と美術」主な構成歴史文化資産等の分布



※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産について元の所在地情報に基づき場所を示している



長命寺



観音正寺



伊崎寺



浄厳院 楼門



長光寺 ハナノキ



東南寺
木造地藏菩薩立像



浄厳院
厨子入銅製舍利塔



伊崎寺の竿飛び

(4) 佐々木六角氏と観音寺城

1) 概要

平安時代に入ると、近江国一帯の開発の進展に伴い、数多くの荘園が設定されることとなります。市域には、佐々木荘、豊浦荘、津田荘、奥島荘、三村荘、日牟礼荘、馬淵荘、船木荘、邇保庄等が確認されています。

このうち**佐々木荘**は、旧安土町域の南部一帯を荘域とする荘園で、蒲生郡や神崎郡を勢力範囲とした古代豪族佐々貴山（佐々貴）氏と深く関わります。一方、平安時代には、宇多天皇の子敦實親王系^{あつぎねしんのう}の軍事貴族である宇多源氏一族が佐々木荘で土着化し、宇多源氏佐々木氏を名乗ります。以降、当地には佐々貴氏と佐々木氏の2系統が存在しましたが、次第に佐々木氏が優勢となり、鎌倉時代の源平争乱における佐々木秀義、その嫡男定綱らの活躍により佐々木氏が近江国守護に補せられたことで、以後佐々木氏が惣領、佐々貴氏が被官的な立場となりますが、やがて両者は同化していきました。このことから当地は、全国の佐々木姓の起源とされ、現在**沙沙貴神社**境内には**佐々木源氏発祥之碑**が建立されています。

また、**豊浦庄**は旧安土町域の北部、上豊浦・下豊浦あたりに比定される荘園で、天平感宝元年（749）に薬師寺に施入され、末寺**桑實寺**がその管理を担いました。その様子は大乘院寺社雑時記や**紙本著色桑実寺縁起**にうかがうことができるほか、**新宮神社**には**絹本著色薬師十二神将像**及び**絹本著色釈迦十六善神像**が、正禅寺には六角氏頼を願主とした旧新宮神社蔵大般若波羅蜜多経が伝えられます。また、地域にはその名残として、多種の**薬師信仰**が残されています。

鎌倉時代に佐々木氏は、幕府により分立し、当地は嫡流六角氏により統治されることとなります。**佐々木六角氏**が戦国時代に居城としたのが**観音寺城**です。観音寺城は、元弘の変（1331年）後の南北朝動乱期には存在したと考えられますが、六角氏の居住する城として整備されたのは、16世紀前半のことと考えられ、標高432mの**織山**^{きぬがさやま}の山頂から南山麓にかけて郭が広がる大城郭は、安土城に先駆けて石垣、礎石を多用した画期的なものです。

城下町である**石寺**と**老蘇**は織山南山麓に位置し、城主六角氏の「御屋形跡」をはじめ、かつての城下町の名残を示す遺構や地名が数多く残されています。また、**石寺新市**^{いしでらしんいち}（推定地・安土町東老蘇）の存在など経済政策面においても近世都市の先駆けとなりました。

六角氏の栄華とともに中世近江の主役として表舞台に立ってきた観音寺城でしたが、「観音寺騒動」（永禄6年（1563））に端を発する支配体制の弱体化が進むと、永禄11年（1568）の織田信長の侵攻により落城し、その後、天正7年（1579）に安土城が完成したことで、観音寺城は歴史的役割を終えることとなります。なお、落城後の城下町石寺には、新たに**向山**^{むかいはやま}からの集落が移転したとの伝承があり、それが現在の石寺の集落と思われます。

当地に残る佐々木六角氏ゆかりの社寺として、沙沙貴神社、新宮神社、桑實寺及び正禅寺とともに、観音寺城跡の中央に境内を構える**観音正寺**、その子院であった**教林坊**、六角氏の菩提寺で六角一族の墓と伝えられる**宝篋印塔**^{ほうきょういんとう}がある**慈恩寺跡**（現浄厳院）、観音寺城下の一部として栄えた東老蘇の**奥石神社**などが挙げられます。

その他、市内には六角氏の居館・居城の**金剛寺城（金田館）跡**、観音寺城のほか支城や関連する城跡として、**水荃岡山城跡**、**長光寺城（瓶割山城）跡**、**北之庄城跡（深谷・岩崎山城遺跡）**、**円山城跡**、**沖島頭山城跡**などの山城、**常楽寺城（木村城）跡**、**田中江城跡**などの平地城館が確認され、また、湊（**常楽寺**）や街道（**東山道**、**景清道**）など関連遺構が残されています。

近江八幡市の市章は、佐々木六角氏に由来する「六角」と八幡の「八」を平和のシンボル鳩の形に置かれたものであり、現代の暮らしの中にも六角氏の足跡が残されています。

2) 構成歴史文化資産

	種別	名称	類型
1	記念物	観音寺城跡 (主郭部、郭跡、石垣跡、土塁跡、御屋形跡(天満宮)等)	国指定文化財
2	有形文化財	観音寺城跡出土品(陶器類等)	未指定
3	有形文化財	桑實寺 本堂	国指定文化財
4	有形文化財	桑實寺 紙本著色桑実寺縁起※	国指定文化財
5	有形文化財	沙沙貴神社 本殿・中門・透塀・権殿・拝殿・楼門・東回廊・西回廊	県指定文化財
6	有形文化財	正禅寺 大般若波羅蜜多經※	県指定文化財
7	有形文化財	浄厳院 宝篋印塔	市指定文化財
8	有形文化財	沙沙貴神社 石燈籠	市指定文化財
9	有形文化財	新宮神社 絹本著色薬師十二神将像※	県指定文化財
10	有形文化財	新宮神社 絹本著色釈迦十六善神像※	市指定文化財
11	記念物	篠筈郷関連遺跡(安土廃寺推定地等)	未指定
12	記念物	石寺新市推定地	未指定
13	記念物	水茎岡山城跡	未指定
14	記念物	長光寺城(瓶割山城)跡	未指定
15	記念物	北之庄城跡	未指定
16	記念物	円山城跡	未指定
17	記念物	沖島頭山城跡	未指定
18	記念物	金剛寺城(金田館)跡	未指定
19	記念物	常楽寺城(木村城)跡	未指定
20	記念物	田中江城跡	未指定
21	民俗文化財	沙沙貴祭り(沙沙貴神社)	未指定
22	その他人文	湊(常楽寺)	未指定
23	その他人文	観音正寺城登城道(観音寺道北、観音寺道南)	未指定
24	その他人文	街道(東山道(中山道)、景清道)	未指定
25	その他人文	観音寺城下町(石寺)の町並み(地割、地名等)	未指定
26	その他人文	ゆかりの社寺 (沙沙貴神社、新宮神社、桑實寺、観音正寺、教林坊、 慈恩寺(現浄厳院)、正禅寺、奥石神社等)	未指定
27	その他人文	佐々木源氏発祥之碑	未指定

その他…上記以外の埋蔵文化財包蔵地(観音寺城跡等)遺構及び出土品、上記以外の遺跡・遺構(中世城跡：北之庄城等、寺院跡：正覚院跡等)、街道に関する資産(景清身丈石、袈裟切地蔵、道標、常夜灯、町石等)、
上記以外の中世城跡・城館跡等、言い伝え・伝承(薬師信仰、お茶子谷地蔵の伝承)等

※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産

3) 保存・活用の核となる関連施設等

県立安土城考古博物館(安土)など

(5) 織田信長と安土城

1) 概要

永禄 11 年 (1568) **織田信長** の侵攻により観音寺城が落城すると、数百年に及ぶ六角氏支配から織田支配に変わりました。信長は元亀元年 (1570) に常楽寺に滞在すると、天正 4 年 (1576) より**安土城**の築城に着手します。築城にあたっては、畿内・東海・北陸から多くの人夫が徴発され、3 年後の天正 7 年 (1579) に天主が完成して信長が移り住み、信長の居城としての安土城は完成しました。天主は安土山の山頂に建設され、八角の五層構造であったと『信長公記』などに記録されており、安土城は当代最高の技術を持った職人たちによる、天下統一の拠点となるべく当時の文化、技術の粋を集めたものでした。

天正 10 年 (1582) の本能寺の変による信長の死後、天主・本丸は焼失してしまいます。発掘調査からは、天主・本丸を含む主郭部より焼け残った柱の部材や壁跡が発見され、炎上の様子を生々しく伝えるとともに、城内の建物について貴重な情報を提供しています。また、多数出土した遺物の中には、織田一族の城に使用された**金箔瓦**などがあります。

安土城跡は大正 15 年 (1926) に史蹟に、昭和 27 年 (1952) には特別史跡に指定され、天主跡をはじめとする**主郭部**や多数の**郭跡**、伝羽柴秀吉邸跡や伝前田利家邸跡などの**屋敷群跡**、**登城道** (大手道、百々橋口道、搦手道等)、山裾部の**石垣**や**内堀跡**などの遺構が保存されています。

摠見寺は、安土城築城に伴い、信長により城内に建立された寺院で、信長亡き後もその菩提を弔いながら、現在に至るまで城跡を守り続けています。境内は伽藍跡とともに、室町時代の建物 (移築) である**三重塔**及び**二王門**が遺存しており、また、什物の中には、**鉄鐙**^{てつづば}や**陣羽織**、信長の一周忌の際に寄進されたとされる**絹本着色織田信長像**、信長没後 100 年後に描かれた**安土城古図**などの織田信長に関連する資産が多数守り継がれています。

安土城下町は、現在の近江八幡市安土町下豊浦、上豊浦、常楽寺、慈恩寺、小中周辺に比定されます。この一帯は、中世以前には豊浦庄があったとされる場所で、城下町の成立にあたって、これら豊浦庄の集落及び**豊浦湊**、また、佐々木荘と常楽寺や**常楽寺湊**など一帯の集落や湊を取り込んでいったことが、信長公記の記述などからうかがえます。

信長は安土城下町に対して、13 か条の掟書 (**安土山下町中掟書**) を出し、楽市楽座をはじめとした都市政策を実施します。それは、城下町を安全と自由が保障された場所とすることで、人々の集住を促そうというものでした。その他城下には、信長が整備し掟書にその通行を定めた**下街道** (朝鮮人街道)、信長が好んだ相撲 (常楽寺相撲) にまつわる伝承が残る**東家**、キリスト教宣教師たちに屋敷を与え、わが国初のキリシタン神学校とした**安土セミナリヨ跡** (推定地)、江戸時代の絵図に描かれた**惣構土手跡**^{そうがまんどてあと} (推定地) など、往時の城下町の姿を偲ばせる資産や地割、地名が至るところに残されています。

当地に残る織田信長ゆかりの社寺として、摠見寺のほか、信長が建立した**浄厳院**があります。浄厳院は、六角氏の菩提寺とされる慈恩寺の跡地を利用し、境内には当時の**楼門** (慈恩寺の遺構) 及び**本堂** (興隆寺 (現多賀町) から移築) が現存するほか、信長に関連する什物として、**織田信長朱印状**が伝えられています。また、浄土宗と法華宗との間で行われた安土宗論の舞台となったことでも有名です。その他、信長が安土城築城安全を祈願して参籠したことが伝えられる**活津彦根神社**^{いくつひこねじんじや}、信長が家臣柴田家久 (勝家の一族) に命じて本殿を造営したと伝えられる**奥石神社**^{おくいしじんじや}などが挙げられます。

2) 構成歴史文化資産

	種別	名称	類型
1	記念物 (特別)	安土城跡 (主郭部、郭跡、屋敷群跡、石垣跡、内堀跡等)	国指定文化財
2	有形文化財	安土城跡出土品 (金箔瓦、金箔鯨、陶器類)	未指定
3	有形文化財	浄厳院 本堂・楼門	国指定文化財
4	有形文化財	摠見寺 三重塔、二王門	国指定文化財
5	有形文化財	奥石神社 本殿、諏訪社本殿	国指定文化財
6	有形文化財	活津彦根神社 本殿	市指定文化財
7	有形文化財	安土山下町中掟書 附 八幡山下町中掟書	国指定文化財
8	有形文化財	摠見寺 鉄鐺※	国指定文化財
9	有形文化財	浄厳院 織田信長朱印状※	県指定文化財
10	有形文化財	摠見寺 絹本着色織田信長像※	市指定文化財
11	有形文化財	摠見寺 安土城古図※	市指定文化財
12	有形文化財	摠見寺 伝豊臣秀吉所用陣羽織※	市指定文化財
13	有形文化財	摠見寺 伝織田信長所用陣羽織※	市指定文化財
14	有形文化財	摠見寺 判金※	市指定文化財
15	民俗文化財	摠見寺 石標	市指定文化財
16	有形文化財	東家住宅 主屋、土蔵、石垣	国登録文化財
17	記念物	安土城跡 外堀一帯	未指定
18	記念物	常楽寺城 (木村城) 跡	未指定
19	記念物	長光寺城 (瓶割山城) 等	未指定
20	記念物	安土セミナリヨ跡推定地	未指定
21	記念物	惣構土手跡推定地	未指定
22	その他人文	湊 (常楽寺、豊浦)	未指定
23	その他人文	安土城登城道 (大手道、百々橋及び百々橋口道、七曲道、搦手道)	未指定
24	その他人文	街道 (下街道 (朝鮮人街道)、景清道)	未指定
25	その他人文	安土城下町の町並み (地割、地名等)	未指定
26	その他人文	ゆかりの社寺 (摠見寺、浄厳院、活津彦根神社、奥石神社等)	未指定
27	その他人文	常楽寺相撲 (近代相撲の発祥) ゆかりの地 (常楽寺湊、東家、新宮神社、安土駅南口広場力士モニュメント、長田の力士塚等)	未指定

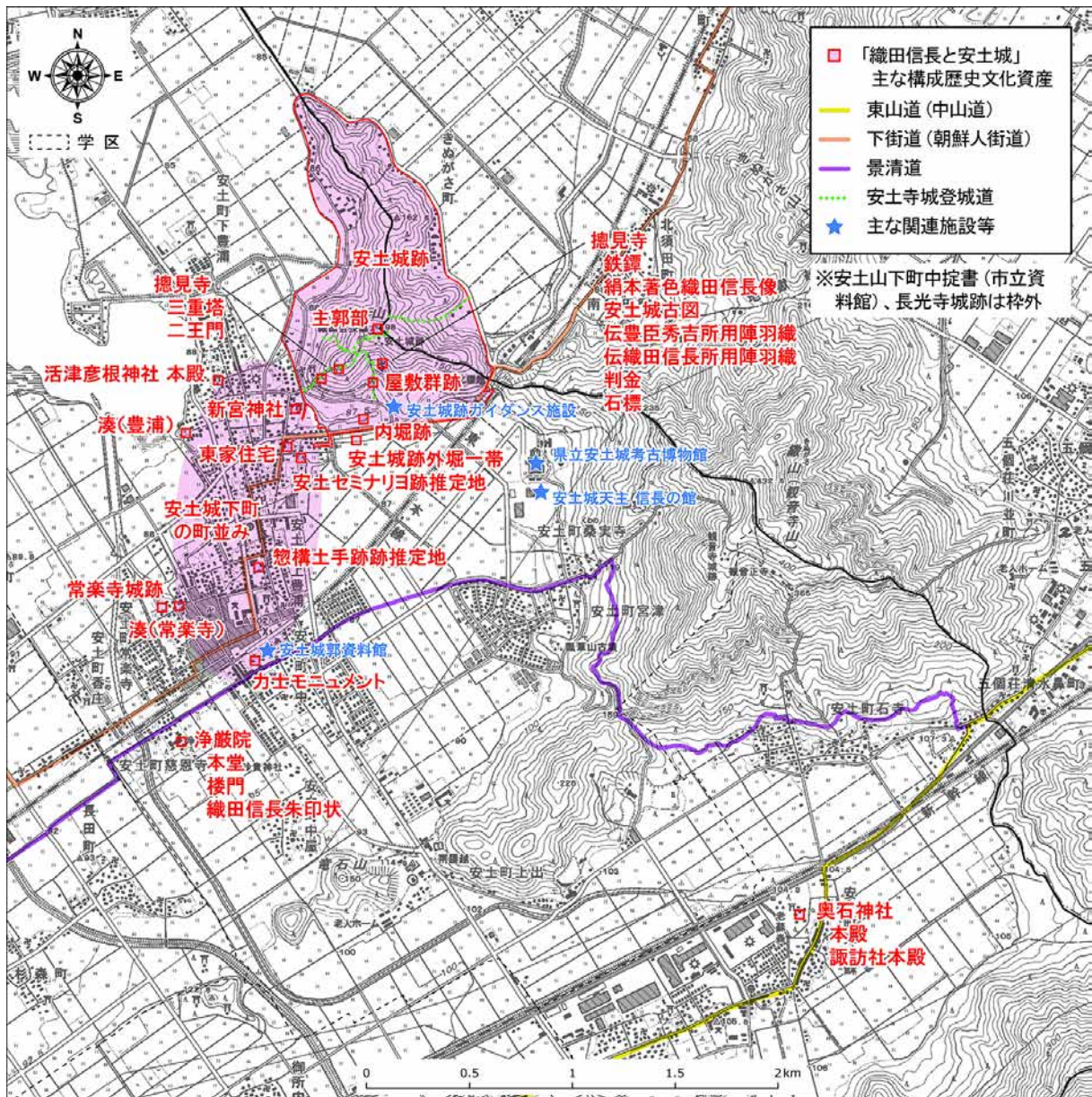
その他…上記以外の埋蔵文化財包蔵地 (安土城跡遺跡、安土城下町遺跡) 遺構及び出土品、上記以外の遺跡・遺構 (伝善住坊屋敷跡、波多野ヒデハル公墓等)、安土城・織田信長関連文書 (摠見寺文書、沙沙貴神社文書、東南寺文書等)、上記以外の摠見寺及び浄厳院に関する資産、街道に関する資産 (道標、常夜灯、町石等)、言い伝え・伝承 (浄厳院安土問答及びカチドキ念仏、亀川論争、千石岩、蛇石、梅の川、お鍋の松) 等

※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産

3) 保存・活用の核となる関連施設等

県立安土城考古博物館 (安土)、安土城天主信長の館 (安土)、安土城郭資料館 (安土)
安土城跡ガイダンス施設 (安土) など

「織田信長と安土城」主な構成歴史文化資産等の分布



※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産について元の所在地情報に基づき場所を示している



安土城跡 全景



安土城跡 天主跡



安土城跡 大手道



安土城跡 外堀一帯



浄厳院 本堂



惣見寺 三重塔



金箔押軒丸瓦



安土城下町の町並み

(6) 豊臣秀次と八幡山城

1) 概要

豊臣秀次は永禄 11 年（1568）に羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）の姉 **智** と木下弥助の長男として尾張国知多郡大高村で誕生しました。叔父の羽柴秀吉は織田信長の元で天下統一に尽力しますが、信長が天正 10 年（1582）に本能寺の変で亡くなると、その意思を引き継ぎ天下人としての道を歩き始めます。秀次は四国攻めを成功させ、その恩賞として近江 43 万石を与えられると、天正 13 年（1585）から**八幡山城**と**八幡城下町**の造営を開始します。

秀次は八幡山山頂にあった**日牟禮八幡宮**上社を麓の下社に合祀しました。八幡山城は山頂に八幡山城の本丸、二の丸、西の丸、出丸、北の丸を配置し、二の丸と出丸の谷筋の下に**秀次の居館**を設けました。**発掘調査**では秀次居館と思われる場所から金箔を貼った瓦が確認されています。また、八幡山城の堀である**八幡堀**は琵琶湖と繋がり、琵琶湖の水運を利用する水路としての役割も果たしました。

八幡城下町は、安土城下町を移して造られたと伝えられており、池田町、佐久間町、正神（庄神）町、小幡町、永原町、慈恩寺町など現在も安土城下町と同名の町が残ります。縦に十二の通りが並び、それに直行する横筋四本により、碁盤目状の長方形街区が整備されました。城下町は一部湿地を埋め立てて造られましたが、開削された八幡堀や城下町の地割に沿って設置された**背割の溝**による排水を行い整備されました。また、地下には竹管を使った**古式水道**を設けるなど、先進的な試みも行っています。城下町には**本願寺八幡別院**などの寺院が配置され、寺以外に非常時に城や城下町の防衛拠点としての意味も持ち合わせていました。

城下には、「**八幡山下町中掟書**」が発給されましたが、これは安土城下に発給された「**安土山下町中掟書**」を踏襲したもので、加えて中山道を利用する商人を八幡町に立ち寄せ、商船を八幡湊に引き入れるなど経済活動の発展を促す内容で、江戸時代に八幡が商人町として発展する基盤となっていました。

天正 14 年（1586）、秀次は豊臣の本姓を与えられ豊臣姓を称し、天正 19 年（1591）には関白に任官されます。その頃になると秀次は尾張国清須城に移封され、八幡山城には京極高次が入城することとなりました。文禄 4 年（1595）、秀次は謀反の疑いをかけられ、高野山で切腹し、八幡山城はその後に廃城されました。秀次の母 **日秀尼** は、秀次の菩提を弔うため京都村雲に**瑞龍寺**（村雲御所瑞龍寺）を建立しました。

昭和 37 年（1962）、八幡山ロープウェーが開通し、また、翌年には瑞龍寺が京都村雲から秀次ゆかりの八幡山山頂本丸部分に移築復興され、現在に至ります。八幡山山頂には、当時の石垣が残されており、西の丸、北の丸、出丸なども整備され、ロープウェーで簡単に登れることもあり、多くの観光客が訪れます。展望台からは市域が一望でき、眼下に広がる城下町の整然とした町並みは、かつて秀次も見た風景とも重なり、八幡の興隆の姿を体感できます。

2) 構成歴史文化資産

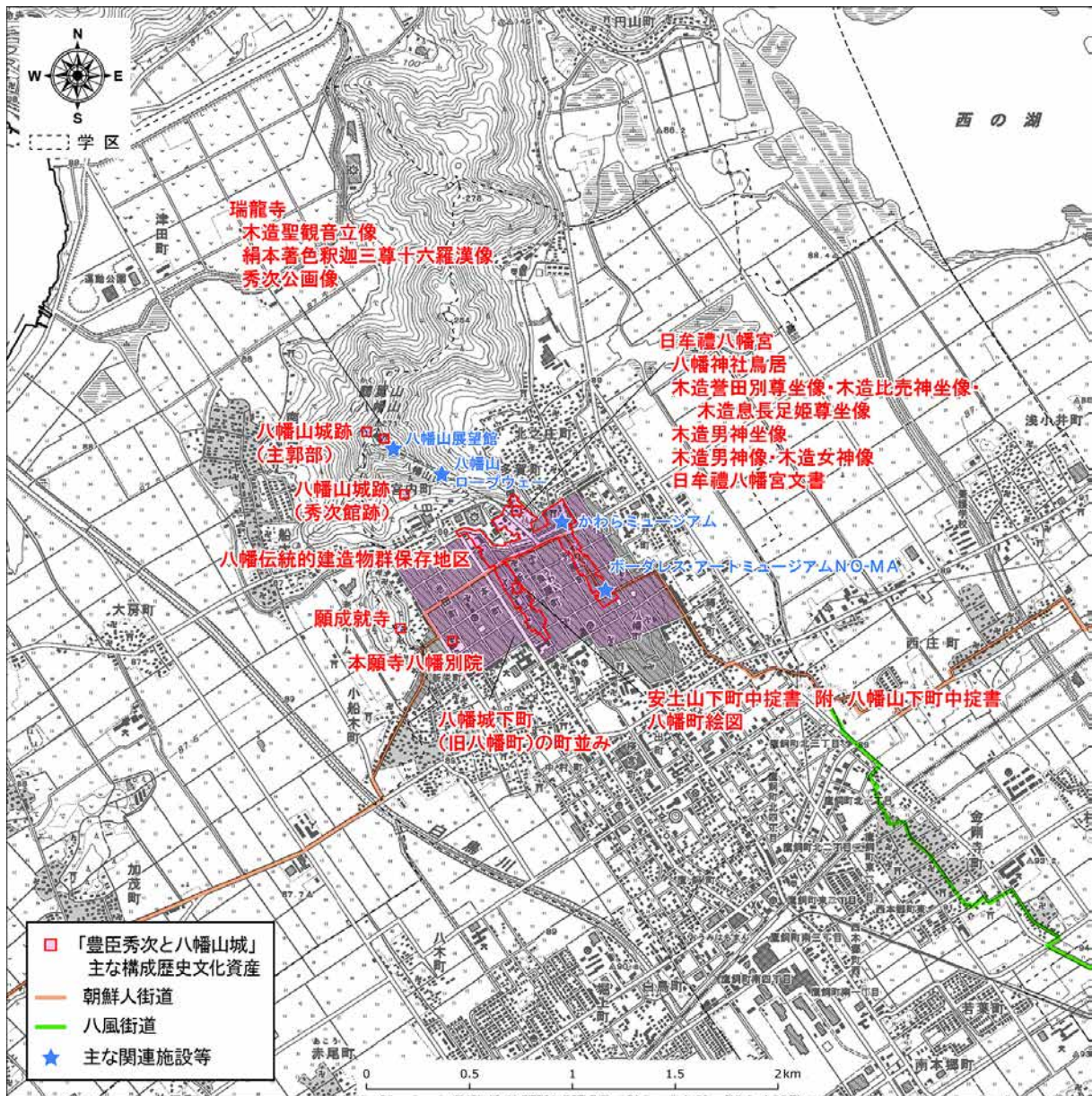
	種別	名称	類型
1	記念物	八幡山城跡（主郭部、秀次館跡、石垣跡等）	未指定
2	有形文化財	八幡山城跡出土品（金箔瓦、軒丸瓦等）	未指定
3	有形文化財	安土山下町中掟書 附 八幡山下町中掟書	国指定文化財
4	有形文化財	八幡町絵図	市指定文化財
5	伝統的建造物群	八幡伝統的建造物群保存地区	国選定文化財
6	有形文化財	瑞龍寺 絹本著色釈迦三尊十六羅漢像	県指定文化財
7	有形文化財	瑞龍寺 木造聖観音立像	市指定文化財
8	有形文化財	瑞龍寺 秀次公画像	未指定
9	有形文化財	本願寺八幡別院 本堂、表門、鐘楼、裏門	県指定文化財
10	有形文化財	日牟禮八幡宮 八幡神社鳥居	県指定文化財
11	有形文化財	日牟禮八幡宮 木造誉田別尊坐像・木造比売神坐像・木造息長足姫尊坐像 木造男神坐像 木造男神像・木造女神像	国・市指定文化財
12	その他人文	日牟禮八幡宮文書	未指定
13	その他人文	街道（朝鮮人街道）	未指定
14	その他人文	八幡城下町（旧八幡町）の町並み （古式水道跡、背割の溝跡、地割、地名等）	未指定
15	その他人文	ゆかりの社寺 （瑞龍寺、日牟禮八幡宮、願成就寺、本願寺八幡別院等）	未指定

その他…上記以外の埋蔵文化財包蔵地（八幡山城跡等）遺構及び出土品、近江八幡の火祭り（国選択）、日牟礼の左義長行事（県指定）、瑞龍寺に関する資産（美術工芸品等）、街道に関する資産（道標、常夜灯、町石等）、豊臣秀次像（八幡公園）等

3) 保存・活用の核となる関連施設等

八幡山ロープウェー（八幡）、八幡山展望館（八幡）、かわらミュージアム（八幡）、
ボーダレスアートミュージアム NO-MA（八幡）など

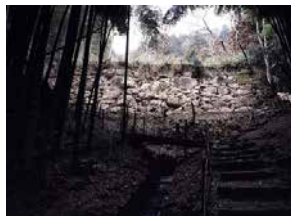
「豊臣秀次と八幡山城」主な構成歴史文化資産等の分布



※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産について元の所在地情報に基づき場所を示している



八幡山城跡 石垣



八幡山城跡 秀次館跡



八幡山頂からの眺望



瑞龍寺



八幡山下町中掟書
(部分)



日牟禮八幡宮



八幡城下町
背割の溝跡



八幡城下町
古式水道 (陶管)